

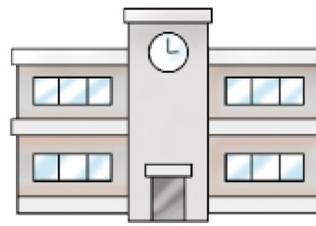


地域防災拠点 (避難所)

市内震度5強以上の地震が起きた時に開設する避難所です。避難してきた人全員で協力・運営します。
※地域防災拠点の場所は地図面をご覧ください。

●地域防災拠点の主な機能

- 避難生活場所の提供
- 地域の安否情報の収集・提供
- 食料・水・生活用品の供給
- 災害ボランティアの要請・受入



福祉避難所

地域防災拠点での避難生活が難しいと判断された要援護者を受け入れる二次的な避難所です。援護の必要が高い人を優先して受け入れます。



要援護者の人を必要に応じて移動します

大地震発生



その場に合った身の安全!

家屋の倒壊等により自宅で生活できない場合

いっつき避難場所

となり近所の安否情報や被災状況を確認する場所です。この避難場所は自治会町内会や班などで任意の場所を決めています。



安否情報の報告
ボランティア要請
物資等の要請※など

ボランティアの派遣
物資等の供給など

町の防災組織 (自治会・町内会等)

在宅避難者と地域防災拠点を繋ぐ役割を期待。日頃から地域において、助け合える関係を築きましょう。

周辺で火災

自宅で生活できる場合

広域避難場所

大規模火災から一時的に避難する場所です。
※食料や水は用意していません。



※被害が大きく避難生活が長期化する場合 (地域防災拠点には最低限の備蓄のみ。追加の支援物資は地震後すぐには届きません。)

自宅 (在宅避難)

住み慣れた家で普段と近い環境で生活でき、プライバシーも守れるなどのメリットがあります。在宅避難をするためには、ご自宅が安全な場所であることが重要です。在宅避難のポイントは、「4 在宅避難のための準備」をご覧ください。



2 家族で「防災会議」

定期的に家族で「防災会議」を開き、発災時の対応について決めておきましょう。

- 家族との安否確認方法は?
- 集合する場所はどこ?
- 非常時に持ち出すものは?
- 避難場所までの安全なルートは?



※いざという時のために、地域の防災訓練にも参加しましょう!

家族の安否確認方法を決めておきましょう!

災害発生時には、電話などの通信が繋がりにくい状況が続きます。そのような時でも家族の安否確認などができるサービスがありますので、どの方法で安否確認を行うか決めて、使い方を確認しておきましょう。

災害用伝言ダイヤル [171]



災害用伝言板サービス [web171]



Google パーソンファインダー



このほかにも、「X」や「Instagram」などのSNSも安否確認手段として活用できます。

旭区ご近助マニュアル

旭区ご近助マニュアル

検索

震災初期の共助活動をリーフレット形式にまとめた「旭区ご近助マニュアル」を発行しています。“みんなで生き残るための取り組み”をまとめているので、ぜひご確認ください。

詳細はこちら



3 ペットの対策

ペットを飼っている方は忘れずに対策しましょう。

- 飼主の明示 (迷子札、マイクロチップなど)
- 「しつけ」をして、社会性を身につけさせる
- 動物用避難用品の確保
- 健康管理 (ワクチン接種、寄生虫駆除など)
- ペットの一時預け先の確保 (知人、親戚など)

詳細はこちら



災害時のペット対策

～ペットとの同行避難対応ガイドライン～



4 在宅避難のための準備

4-1 家族でできる減災対策

L字金具など 壁面にがっちり固定します。

ベルト

つつぱり棒 天井が高い・柔らかい場合は不向きです。

粘着マット 金具などで固定できない場所にも使えます。

ガラスの飛散防止用フィルム 割れたガラスでけがをしないように、窓ガラスや食器棚などのガラス面に貼りましょう。

家具の配置にも“ひと工夫” 寝ている時に下敷きにならない、出入り口がふさがれないよう、家具の配置を工夫しましょう。

感震ブレーカー

4-2 生活必需品の備蓄

災害発生直後は物資の調達が難しくなります。各家庭で**1週間分(最低でも3日分)**の生活必需品を備えておきましょう。また、すぐ取り出せるところに非常持出品を準備しておきましょう。

飲料水

- ・1人1日分3L (3日分で9L)



食料品

- ・レトルト食品や缶詰など簡単に食べられるもの
- ・アレルギー体質などの家族の状況にも配慮を



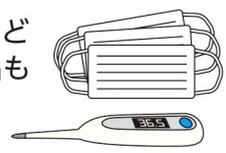
トイレパック

- ・食べることは我慢できても、出すことは我慢できません!
- ・水道が止まっても自宅のトイレが使えるよう、1人1日5回分(3日で15回分) ※ホームセンターなどで購入できます



マスク・体温計など

- ・マスクや体温計などの感染症対策物品も備蓄しましょう!



停電への備え

- ・懐中電灯、ランタン、携帯ラジオなど
- ※蓄電池やポータブルソーラーパネルの活用も有効です



その他

- ・各家庭や個人に必要な常用薬、眼鏡・コンタクトレンズ、生理用品、紙おむつなど
- ・非常持出品を入れたリュックサックなど



循環型備蓄(ローリングストック)を進めましょう!

家族構成や生活スタイルに合わせて、食料や日用品を少し多く買い備えて、備えたものを順番に使いながら新たに買い足していく考え方です。

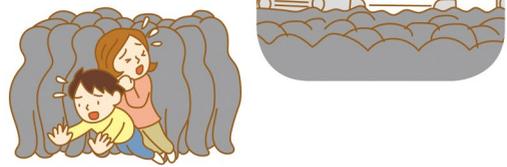


5 帰宅困難者になったら

外出先で地震が発生し、公共交通機関が停止した場合の対処方法

① 安全な場所を確保し、むやみに移動しない

人が一斉に動き出すと、集団転倒を起こしたり、大渋滞により緊急車両の通行の妨げになったりする可能性があります。



② 正確な災害情報を収集

スマートフォンなどで、右記(7)防災情報の収集方法)のツールを活用し、被災地域や帰宅地域の情報などを入手しましょう。事前にメールの受信設定やアプリのダウンロードをしておくことが大切です。



③ 家族などに安否を知らせる

災害用伝言ダイヤルなどを活用し、安否を家族などに伝えましょう。また、日頃から連絡手段や集合場所を話し合っておきましょう。

④ 帰宅の判断

正確な情報を入手したら、帰宅できるか判断しましょう。職場に戻ることも選択肢の一つです。待機場所がない場合は、「帰宅困難者一時滞在施設検索システム」で近くの帰宅困難者一時滞在施設を調べることができます。



▲施設の検索はこちら

6 災害時の医療体制

震度6弱以上の大地震発生時、診療可能な医療機関では、その目印として「診療中」の旗を掲示し症状の重さに応じて診療を分担します。災害時にけがをしたり病気になった場合は、症状の重さに応じた医療機関で診療や手当てを受けるようお願いいたします。

症状の程度	診療体制	旗の色
重症	災害拠点病院 (区内1か所)	「診療中」の赤い旗を掲示
中等症	災害時救急病院 (区内8か所) ※隣接区の病院も受診可能です。	「診療中」の黄色い旗を掲示
軽症	地域の診療所 (一般・歯科) 地域防災拠点などへの医療救護隊による巡回診療	「診療中」の黄色い旗を掲示
応急手当て対応可能な軽度の負傷	市民の自助・共助による応急手当	

7 防災情報の収集方法

横浜市防災 X

@yokohama_saigai
を検索・フォローする



横浜市避難ナビ

左) iOS版
右) Android版



横浜市防災情報 Eメール

ホームページで検索または2次元コードを読み取り、空メールを送信



あさひ安全・安心かわら版

ホームページで検索または2次元コードを読み取り、読者登録

